

ビジネス通訳クラスにおける ゲストスピーカーとの コラボレーション

神戸学院大学 森下美和 miwa@gc.kobegakuin.ac.jp

2018年3月18日

@第140回次世代大学教育研究会・日本ビジネス・コミュニケーション学会大会



戦後の日本における通訳の歴史

- 1950～1960年代の財閥解体によりアメリカナイズが始まると、約6000名の若手経営者がアメリカのビジネスを視察に行くこととなり、国務省によって若手通訳者が募集された。
- その際に採用された約50名の優秀な素人が、トレーニングなしのOJTで通訳業務を行い、プログラム終了後も日本の通訳業界をリードする人材となった。
- 1964年の東京オリンピックや1970年の大阪万博などの開催を契機として、さまざまな通訳エージェントが設立され、人材育成や人材派遣などのような機能を持つようになった。
- 大学において本格的な通訳教育が行われるようになったのは、2000年前後になってから。

ビジネス通訳クラスのシラバス

■ 授業概要

- ✓ 各種ビジネス場面を想定した通訳訓練（逐次通訳）を行う。
- ✓ 主として英日を中心とするが，必要に応じて日英も行う。

■ 到達目標

- ✓ 逐次通訳の基本的なスキルを習得する。
- ✓ 通訳練習により，日⇔英運用能力を向上させる。
- ✓ 特に専門的でないビジネス関連のテキストを120WPM程度の速さで聞き取り，80%程度の正確さで再生・通訳することを目指す。

授業

■ 授業内容

- ✓ 音声を聞きながらノートを取り，1パラグラフ程度ごとに通訳するという流れで，個人，ペア，グループ単位での活動を行う。
- ✓ 学期末に，**通訳パフォーマンス大会**を実施。

■ 受講生

- ✓ 外国語学部の大学3年生11名
- ✓ 全員が2年次に1年間の海外留学を経験
- ✓ Versant Writing Test で平均57.2点（CEFR B1~B2レベル）

「ビジネス通訳とは？」

- ビジネスシチュエーションにおける適切な通訳
- ビジネスの場で、複数国間で話し合われる際に行われる通訳
- 社会人として複数の言語の橋渡しをするもの
- ビジネスを円滑に行うための言語的なサポート
- 外国との取引などを行う際に、重要となる役割
- 仕事のシチュエーションで二者間以上のやりとりを通訳を通じて手助けすること
- ある企業においての会議などで、母語が異なる人同士が言語によって誤解や差がないように参加できるための手助け
- 金銭の関わる取引、契約、決定の際に、異言語話者間の仲介者として橋渡しをしながらも、黒子のように存在感は出さない存在
- 専門用語や数字など普段はあまり触れないものでも正確に相手に伝える必要のあるもの
- フォーマルな仕事上での通訳

「将来どんな仕事がしたい？」

- ビジネスマン
- 英語を生かした仕事（通翻訳も含む）
- どんな形でも人と人をつなぐ仕事
- 商社 or 営業マン(MR)
- 英語を身近に感じられる仕事
- 海外営業，航空業界，旅行代理店など積極的に英語を使う仕事
- 特に決まっていないが，日本独自のものやサービスを伝える仕事がしたい
- 外資系企業，もしくは駐在員として働きたい
- 英語を使って海外とやりとりができる仕事
- 外国語教育に関わる仕事

ゲストスピーカー

A) This is Ann Chang, 張鳳蘭, the visiting teacher from Taiwan who has been attending Someya Sensei's Friday class. He recommends your business interpreting class and advises me to email you for permission to audit it. May I have the privilege to learn from you? Looking forward to hearing from you! Have a nice day!

M) Sure. Would you like to come today or next week?

テーマ：台湾

- | | |
|-----------------------------|------|
| 1. Location (Geography) | : 1名 |
| 2. Culture (incl. Language) | : 2名 |
| 3. People | : 2名 |
| 4. Religion | : 1名 |
| 5. Specialties | : 2名 |
| 6. Chinese new year | : 3名 |

→3,000語程度のスピーチ原稿を用意していただくことに。

パフォーマンス大会

M) Before our discussion (after the class), I'll give them the following announcement.

1. They will translate your English into Japanese for about 5-6 minutes each (3 minute-translation).
2. They will get an abstract (article?) and a glossary next week.
3. They will get evaluated both by teachers (you and me) and other students.

If there is a problem, just let me know.

事前打合せ（メール）

A) Attached please find my draft. I will fine tune the format and ad lib a little to make the speech flow better...<snip> 3000 words are about what I can put together so far. However, I feel that 3000 words should be enough since I will be ad libbing a bit.

M) By the way, which do you think is better?

1. We'll give them the full script beforehand and won't decide who will do which part until next week.

2. We'll decide who will do which part and give a vocab list respectively.

In the case of 1), we don't need to make a vocab list!

事前打合せ（メール）

A) If you don't think it's too easy to give them the entire script, let's go for option one. The script is long enough and they need to spend quite a bit of time to look up all the words to become familiar with the content, so I think it's still good practice if they do not know which part they will cover.

I kind of cut and pasted a lot of things together. Especially towards the end, the draft looks a bit sketchy. However, we can tell them this is just a draft, the speaker might make some changes which happens a lot in real life.

In addition, dividing the draft equally into 11 portions by subtopic is difficult. Therefore I personally prefer option one. What do you think?

M) Yes, let's go for option one! Then I'll just print the full script and distribute it to the students. We don't have enough time to make a glossary anyway.

お礼のメール

A) I want to thank you for allowing me to sit in your class this semester! I have thoroughly enjoyed it. Serving as a speaker in the final exam was a special experience for me. いろいろ教えてくださってありがとうございました! Let's stay in touch and I'll see you in Someya sensei's class this evening.

M) Thank you for your warm message. Today we are having a pizza party in the second half of my class. If you can come earlier, please join us!

ピアレビュー（抜粋）

■ 訳について

- ✓ national palace museumやjadeite cabbageの日本語名を調べておいたほうが良かった。
- ✓ 数の訂正がスピーカーからあった点が気にかかる。
- ✓ 「私的（わたしてき）」などくだけた表現は避けたほうがよいと思われる。
- ✓ チキンの“moist”と“crispy”を対比できればさらに理解しやすくなると思われる。
- ✓ Beijingより北京と言う方が日本人にはわかりやすいと思う。
- ✓ chewyを「噛みごたえのある」と訳せたのがすごいと思った。

ピアレビュー（抜粋）

■ 話し方

- ✓ 訳しているというより、自分が話しているようで良かった。
- ✓ 少し原文との間（ま）が空くことが気になりました。
- ✓ 全体的に、特に二文以上（台湾人の特徴など）の長文になった際のまとめ方が上手く参考にしたい。
- ✓ 長い部分もあったが、話者と同等の発話時間で収めていたところがよかった。
- ✓ 途中で止まることもなく、発話まで時間がかからずスムーズに通訳できていた。
- ✓ 話し手が強調しているところを、通訳でも強調したり、訳しているというより話しているように話せるともっと良いと思った。

ピアレビュー（抜粋）

■ その他

- ✓ 発音のところでもう一度してもらおうようお願いするなど臨機応変さがよかった。
- ✓ audienceの方を見て、通訳していたのがよかった。
- ✓ アドリブにも、あわてずきちんと対処しており、実際の通訳現場でも安定してパフォーマンスができると思います。
- ✓ 中国語を聞き返したり、自分でも発音していて良かったと思います。
- ✓ 聞き返すなど、臨機応変に対応していたので、良かったです。

まとめ

- 通訳クラスの中で、単にお互いのスピーチの通訳ではなく、他国からのゲストスピーカーの通訳をすることは、学生にとっては、臨場感があり、異文化について学ぶ良い機会となると思われる。
- ただし、学生自身がスピーチをする＝英語を話す機会は減るので、別途そのような時間を確保する必要がある。
- 日本在住外国人なども視野に入れ、今後もゲストスピーカーを招く機会を持ちたい。

謝辞

ゲストスピーカーを快諾してくださったAnn Chang先生 (National Changhua University of Education, Graduate Institute of Translation and Interpretation)、またAnn先生をご紹介くださった染谷泰正先生 (関西大学) に、この場をお借りして、深く感謝の意を表します。

THANK YOU!

